



116期 株主通信

TDK TODAY

VOL.48 2011/WINTER



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2011年9月30日に終了しました2012年3月期第2四半期累計期間の連結業績についてご報告いたします。

連結業績は、売上高4,171億57百万円（前年同期比5.7%減）、営業利益137億92百万円（前年同期比62.9%減）、税引前四半期純利益106億81百万円（前年同期比69.2%減）、当社株主に帰属する四半期純利益67億19百万円（前年同期比74.3%減）、1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益金額52円9銭（前年同期202円46銭）となりました。



代表取締役社長 上釜健宏

当第2四半期累計期間における対米ドル及びユーロの期中平均為替レートは、79円84銭及び114円00銭と前年同期に比べ対米ドルで10.2%の円高、対ユーロで0.2%の円安となりました。この為替変動により、売上高で約332億円、営業利益で約109億円がそれぞれ減少いたしました。なお、東日本大震災及びその後の余震や停電等の影響により、当第2四半期累計期間における売上高は約57億円、営業利益は約36億円、それぞれ減少する結果となりました。また、主に当社の年金制度変更に伴い、第1四半期の営業利益段階で約31億円の一時費用が発生いたしました。

当第2四半期累計期間における世界経済は、新興諸国は概ね堅調な成長を維持したものの、先進諸国においては経済活動が減速するとともに、特に欧州地域においては深刻な金融情勢の悪化に直面しました。当社の連結業績に影響を与えるエレクトロニクス市場についても、需要拡大中のスマートフォンを中心とした携帯電話及びタブレット端末の生産は、前年同期の生産水準を上回る一方、薄型テレビ、パソコン及びハードディスクドライブ(HDD)においては、前年同期とほぼ同水準の生産に留まるなど、セット製品（最終財）により異なった生産水準となりました。

こうした環境下において、当社グループは、成長著しいスマートフォン向けや産業機器市場向けの拡販に加え、コストダウン・経費削減等に努めました。

しかしながら、電子部品需要が想定より低調であったことや、上記の為替変動や東日本大震災及びその後の余震や停電等の影響等により、当社の連結業績は、減収減益と大変厳しい結果となりました。

現在の市場環境、タイにおける大洪水や円高の影響等、当社を取り巻く経営環境は厳しさを増しておりますが、当社ではモノづくり力の強化と収益力改善のための取り組みを加速させてまいります。株主の皆様には一層のご支援をお願い申し上げます。

CONTENTS
もくじ

TDK TODAY
vol.48

株主の皆様へ

連結データハイライト

製品別業績概要

株式上場50周年記念特集

TOPICS

株式および役員の状況

配当金および各種お手続きのご案内

名句の旅 & TDK

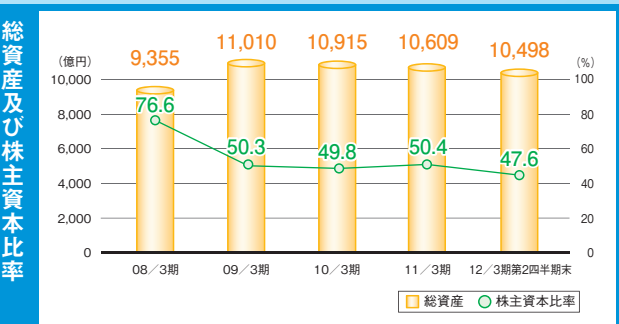
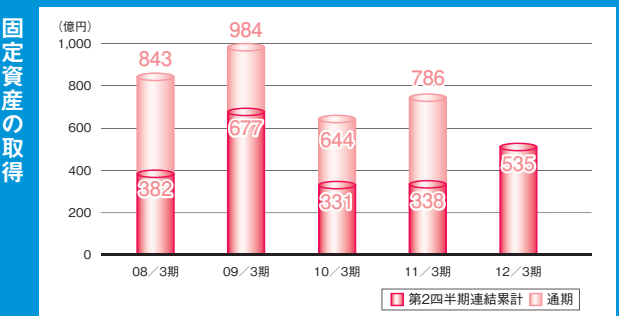
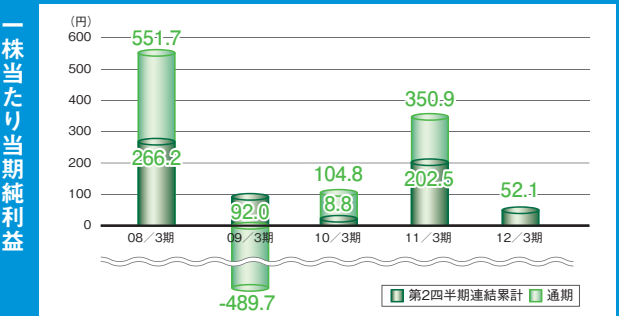
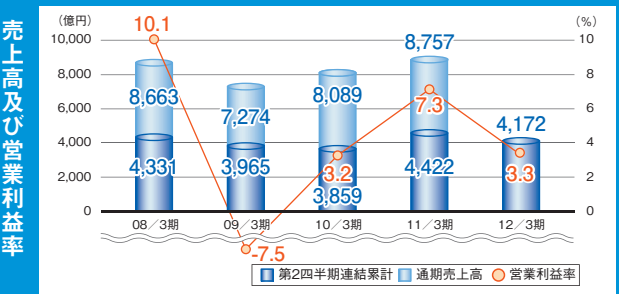
7

9

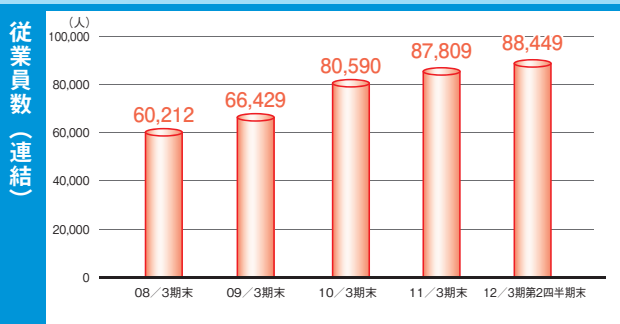
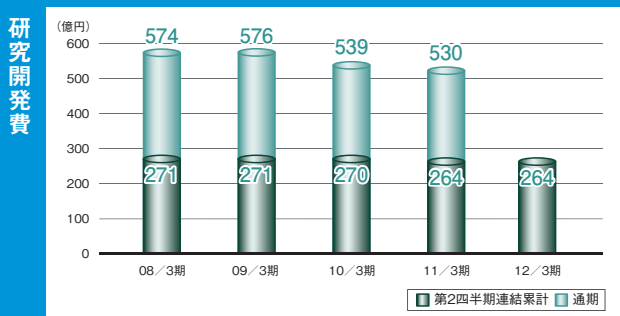
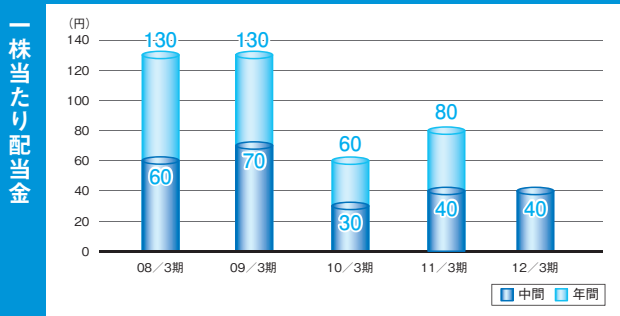
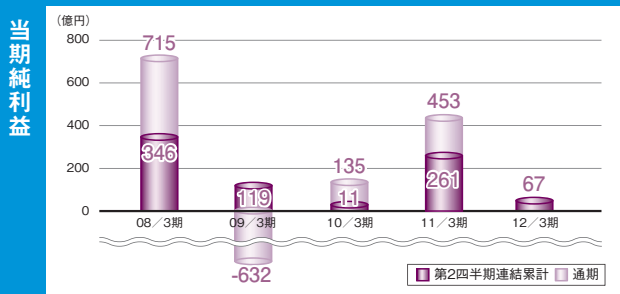
10

裏表紙

連結データハイライト



(表示単位未満は四捨五入して表示しております。)



製品別業績概要

当社グループは、電子部品等の製造・販売を主な事業としており、「受動部品」と「磁気応用製品」の2つの報告セグメント及びそれらに属さない「その他」に分類されます。各区分を構成する主な事業は、右記のとおりです。

区分	構成する主な事業
受動部品	セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、インダクティブデバイス(コイル、フェライトコア、トランス)、高周波部品、圧電材料部品・回路保護部品、センサ
磁気応用製品	記録デバイス、電源、マグネット、記録メディア
その他	エナジーデバイス(二次電池)、メカトロニクス(製造設備)等

※当第1四半期における組織変更により、インダクティブデバイスの一部製品を「その他」に区分変更しました。これに伴い、前第2四半期累計期間につきましても変更後の区分に準じた売上高に組替えております。

▶ 受動部品

Passive Components

当セグメントは、①コンデンサ事業 ②インダクティブデバイス事業 ③その他受動部品で構成されております。売上高は、2,016億1百万円(前年同期2,134億50百万円、前年同期比5.6%減)となりました。

コンデンサ事業:セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ及びフィルムコンデンサから構成されております。売上高は、702億30百万円(前年同期757億30百万円、前年同期比7.3%減)となりました。アルミ電解コンデンサ及びフィルムコンデンサの販売は、主に産業機器市場向けで増加したものの、セラミックコンデンサの販売が、情報家電市場向けを中心に減少しました。

インダクティブデバイス事業:売上高は、642億33百万円(前年同期656億87百万円、前年同期比2.2%減)となりました。スマートフォンを中心とした通信機器市場及び自動車市場向けの販売が増加したものの、情報家電市場向けの販売が減少しました。

その他受動部品:高周波部品、圧電材料部品・回路保護部品及びセンサで構成されております。売上高は、671億38百万円(前年同期720億33百万円、前年同期比6.8%減)となりました。高周波部品の販売が主に通信機器市場向けで減少しました。圧電材料部品・回路保護部品及びセンサの販売は、情報家電市場及び自動車市場向けでそれぞれ減少したものの、通信機器市場向けで増加しました。



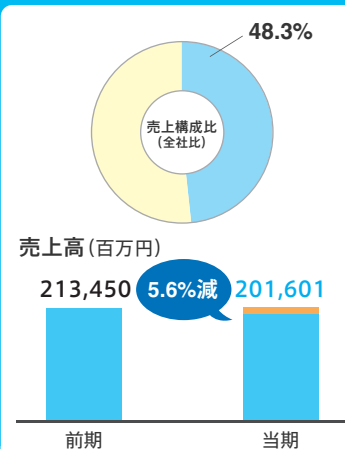
積層セラミックチップ
コンデンサ



アルミ電解
コンデンサ



インダクティブ
デバイス



▶ 磁気応用製品

Magnetic Application Products

当セグメントは、①記録デバイス事業 ②その他磁気応用製品で構成されております。売上高は、1,671億76百万円(前年同期1,925億6百万円、前年同期比13.2%減)となりました。

記録デバイス事業:主にHDD用ヘッドとHDD用サスペンションから構成されております。売上高は、1,085億40百万円(前年同期1,370億円、前年同期比20.8%減)となりました。HDD用ヘッドの販売数量が減少したことに加え、売価下落及び米ドルに対する円高の影響を受け減収となりました。

その他磁気応用製品:電源、マグネット及び記録メディアで構成されております。売上高は、586億36百万円(前年同期555億6百万円、前年同期比5.6%増)となりました。電源の販売は、自動車市場及び産業機器市場向けで増加しました。また、マグネットの販売は、情報家電市場向けで増加しました。



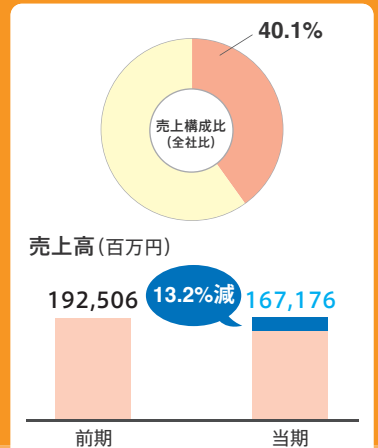
HDD用ヘッド



電源製品



マグネット



▶ その他

Other

2つの報告セグメントに属さないその他は、①エナジーデバイス(二次電池) ②メカトロニクス(製造設備)等で構成されております。売上高は、483億80百万円(前年同期362億78百万円、前年同期比33.4%増)となりました。エナジーデバイスの販売は、情報家電市場及び通信機器市場向けでそれぞれ増加しました。



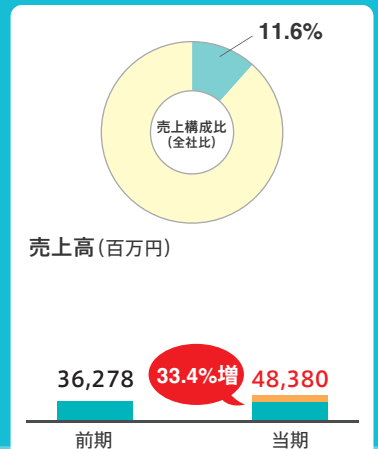
エナジーデバイス
(二次電池)



メカトロニクス
(製造設備)



ソリッドステート
ドライブ(SSD)



株式上場から半世紀、株主・投資家の皆様のご支援に感謝申し上げます。

TDKは1961年9月14日に東京証券取引所に株式を上場し、おかげさまで今年で50周年を迎えることができました。上場当時の日本は、既に高度経済成長の真っ只中。エレクトロニクス産業は、東京オリンピック以降のカラーテレビ普及に始まり、コンピュータの登場など著しく発展、また海外ビジネスが進展することで、日本経済の成長に大きく寄与してきました。

当社は、このような経営環境の変化に対応する形で、国内外における株式や社債の発行等による資金調達を積極的に行い、その資金を活かした技術開発、製造及び販売拠点の拡充、設備投資、M&A、人材育成等を行ってきた結果、“モノづくり力”を原点とする、現在のTDKを作り上げることができました。ここに、株主・投資家の皆様の長年にわたるご理解とご支援に、あらためて心より感謝申し上げます。

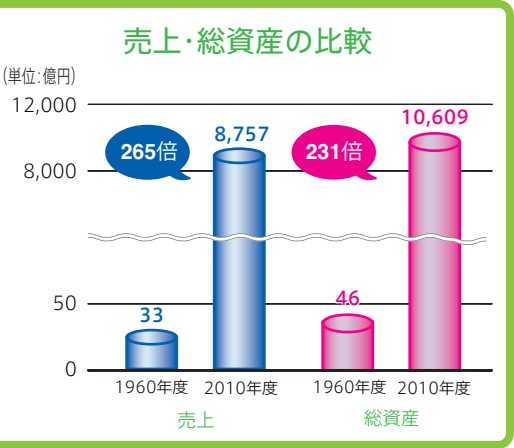
主な株式上場・資金調達と投資等の歴史

主な株式上場・資金調達等	調達金額 (億円)	主な投資等
 Ⅰ. 東証上場を果たし、世界市場への第一歩を踏み出す。 1961年 9月 東京証券取引所市場第二部に上場 10月 同第一部に昇格 (当時の社名は「東京電気化学工業株式会社」)		1964年 輸出開始 1965年 海外初の拠点設立 (米国) 1970年 国内工場を新設 (鳥海、静岡)
 Ⅱ. 欧米で次々に上場、売上1,000億円企業の仲間入りを果たす。 1974年 ADR (S-12方式) 発行 1976年 米国NASDAQ上場、CDR発行、アムステルダム証券取引所上場 1982年 ADR (S-1方式) 発行、ニューヨーク証券取引所上場 1983年 ロンドン証券取引所上場 1985年 国内で完全無担保普通社債発行	60 130 100	1978年 成田工場新設、TDK U.S.A. CORP. (米国) 設立 1980年 TDK ELECTRONICS CORP. (米国) ジョージア工場新設、その後記録メディアの拠点を拡充 (82年三隈川、83年千曲川、85年ドイツ等) 1982年 甲府南・稲倉工場新設等
 Ⅲ. 大型の資金調達で、開発、事業強化、拠点拡充、M&Aを積極的に展開。 1986年 欧州でドル建て新株引受権 (ワラント) 付社債発行 1987年 国内で無担保転換社債発行	233 300	1986年 SAE MAGNETICS (H.K.) LTD. (香港) 買収 1990年～ 基礎材料研究所・テクニカルセンター新設、その他世界各地で製造・販売拠点を設立
 Ⅳ. 強固な財務基盤を背景に、受動部品や成長分野の大型M&Aで事業強化を加速。 2009年 第2回～第4回無担保普通社債発行	840	2005年 Amperex Technology Ltd. (香港)、ラムダ・パワーグループ (英国) 買収 2008年 EPCOS AG (ドイツ) 買収 2009年 TDK-EPC株式会社設立



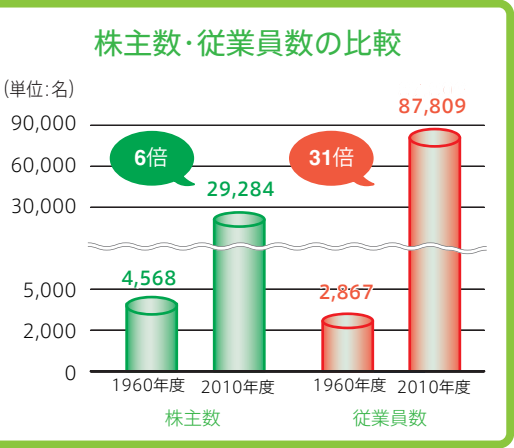
上場半世紀の節目を迎えたTDK、新たなステージへ

TDKは、株主・投資家の皆様のご期待に応えるべく、今後も社是であります「創造によって文化、産業に貢献する」企業 として、持続的な成長を目指し、邁進してまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。



～ 成長の証 ～

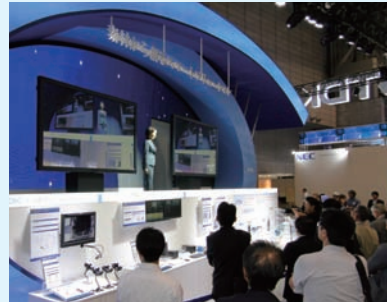
“50年前” vs “現在”のTDK



CEATEC JAPAN 2011に出展

TDKは去る10月4日から8日まで、幕張メッセで開催されたアジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展である『CEATEC JAPAN 2011』に出展いたしました。

展示会の出展企業・団体数は586社で、期間中の入場者数は約17万2,000人にのぼりました。今回は、ブースメッセージとして「素材から創るスマートソリューション」を掲げ、TDKの最新製品や技術を、来場者の方に、直接見て、触れて、体験していただくことに重点を置き、デモンストレーションを充実させた展示でスマートフォンやエコカー、スマートグリッドなど、モバイル通信、環境貢献、エネルギー関連を中心に最先端の取り組みを紹介いたしました。



特設ステージでのデモンストレーションの模様

ブース正面に設けた特設ステージでは、非接触給電や光学モジュールなど、今後の普及が期待される新分野でのTDKの最先端ソリューションのデモを中心に紹介し、来場者の注目を集めていました。また、個別デモゾーンでは、HDD用ヘッドの高記録密度技術やデジタル制御電源など、TDKが得意とする分野の最新技術を紹介し、製品展示ゾーンでは、モバイル通信、カーエレクトロニクス、環境エネルギーの3分野における新製品と技術を展示いたしました。

世界陸上韓国大邱大会にオフィシャルパートナーとして協賛

去る8月27日から9月4日まで、第13回IAAF世界陸上選手権大邱(テグ)大会が韓国で開催されました(参加国数202、観客動員数約46万人)。TDKは、1983年の第1回ヘルシンキ大会からのオフィシャルパートナーで、今回も100m競争のスタートボードの広告看板や男子選手ゼッケンのTDKロゴがテレビ放送などを通じて全世界200カ国以上に発信されました。大会最終日の最終種目である男子4×100mリレーでは注目のボルト選手を含むジャマイカチームが世界新記録を樹立し、TDKは「ワールドレコード賞」として10万ドルの賞金をジャマイカチームに贈呈いたしました。



ジャマイカチームへの「ワールドレコード賞」贈呈
(Photo by Getty Images)

TDKホームページの株主・投資家情報をリニューアル



和文・英文版アニュアルレポートをオンラインアニュアルレポート化

TDKでは、従来アニュアルレポートを冊子として作成し、ホームページにはPDFファイルを掲載しておりましたが、2011年版からはホームページ上にオンラインアニュアルレポートとして掲載しております。オンライン化することで、TDKのホームページ上の豊富な情報に自由にアクセスしながらのご利用が可能になり、より見やすく、分かりやすい構成になりました。また、印刷してご利用いただけますようPDFファイルも添付しておりますのでご利用ください。



インベスターズガイドもホームページ版に

過去から最新までの11年分の企業業績データをまとめたインベスターズガイドも、冊子版からホームページ版へと移行させました。こちらもアニュアルレポートと同様に、PDF版とエクセルシートデータを掲載しております。



便利なチャートジェネレータを新設

11年分の主要な経営指標の項目と期間を自由に選択して、自動的にグラフ化できるチャートジェネレータを新たに組み込みました。また、全てのデータが一覧できるエクセルシートを掲載しておりますので是非ご活用ください。



“個人投資家の皆様へ”を大きくリニューアル

TDKの基礎情報を、ビジュアルを多用して分かりやすく解説したページに作り変えました。また、「TDKの5つの強み」や「TDKの成長戦略」といったコーナーも充実させました。

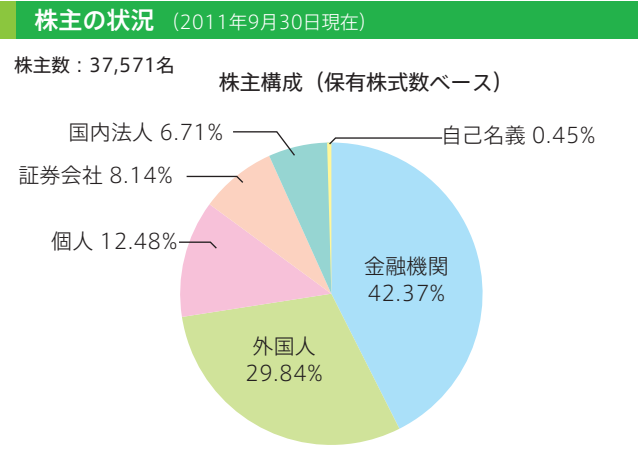
四半期ごとに開催いたします決算説明会の模様は、当日のライブ放映にてリアルタイムでご覧いただくことができますので、是非当社ホームページにアクセスしてください。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/

株式および役員の状況

株式の状況（2011年9月30日現在）	
上場証券取引所	東京（証券コード：6762）、ロンドン
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末：毎年3月31日、中間：毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日（そのほか臨時に必要なときはあらかじめ公告いたします）
公告方法	電子公告（当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/に掲載いたします）
1単元の株式数	100株
発行可能株式総数	480,000,000株
発行済株式の総数	129,590,659株

大株主（2011年9月30日現在）		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	14,864	11.52
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	12,076	9.36
3. パナソニック株式会社	6,250	4.84
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	3,115	2.41
5. SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	2,647	2.05
6. 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	2,619	2.03
7. JPモルガン証券株式会社	2,578	2.00
8. 全国共済農業協同組合連合会	2,140	1.66
9. 日本生命保険相互会社	2,140	1.66
10. みずほ証券株式会社	1,993	1.54
合計	50,420	39.08

（注記事項） 1. 持株比率は、自己名義株式（586,214株）を控除して計算しております。
2. 持株数、持株比率とも表示単位未満を四捨五入して表示しております。



取締役、監査役および執行役員（2011年9月30日現在）			
取締役 *印は社外取締役		執行役員	
取締役	澤部 肇	社 長	上釜 健宏
取締役会議長		専務執行役員	Raymond Leung (レイモンド・リョング)
代 表 取 締 役	上釜 健宏	常務執行役員	荒谷 真一
取 締 役	森 健一*	常務執行役員	藤原 賢一郎
取 締 役	荒谷 真一	常務執行役員	小林 敦夫
取 締 役	梁瀬 行雄*	常務執行役員	植村 博之
取 締 役	米山 淳二	執 行 役 員	野村 武史
取 締 役	大野 亮一*	執 行 役 員	石垣 高哉
		執 行 役 員	吉原 信也
		執 行 役 員	米山 淳二
		執 行 役 員	Robin Zeng (ロビン・ツェン)
		執 行 役 員	逢坂 清治
		執 行 役 員	梶屋 雅隆
		執 行 役 員	松岡 薫
		執 行 役 員	広田 嘉章
		執 行 役 員	斎藤 昇
		執 行 役 員	Gerhard Pegam (ゲルハルト・ペガム)
		執 行 役 員	桃塚 高和
監査役 **印は社外監査役			
常 勤 監 査 役	原 登		
常 勤 監 査 役	四居 治		
監 査 役	中本 攻**		
監 査 役	増田 宏一**		
監 査 役	澄田 誠**		

配当金および各種お手続きのご案内

①配当金に関するご案内

お受取り方法 ◀◀◀ **どんな方法があるの？**

配当金をお受取りになるには、次の4つの方法があります。
(複数の銘柄をお持ちの場合)

「お振込み」の場合

1. 全銘柄の配当金を**証券口座にご入金**
2. 全銘柄の配当金を一括して**銀行口座へお振込み**
3. 個別銘柄毎の配当金を**個別指定の預金口座へお振込み**

ワンポイントアドバイス

お振込みなら安心・スピーディー！
詳しくはお取引のある証券会社等へ！

ゆうちょ銀行等の窓口の場合

4. 個別銘柄毎の配当金を
「**配当金領収証**」を持参し窓口にてお受取り

確定申告 ◀◀◀ **何を留意すればよいの？**

毎年の確定申告には次の書類を添付書類としてご使用ください。

配当金を「お振込み」でお受取りの株主様

今回お送りした『**配当金計算書**』

※但し、「全銘柄の配当金を証券口座にご入金」の方法でお受取りの株主様は、お取引のある証券会社等にお問合せください。

ワンポイントアドバイス

受け取ったら大切に保管！
詳しくは中央三井信託銀行へ！

配当金を「配当金領収証」にてお受取りの株主様

今回お送りした『**配当金計算書**』

未払配当金 ◀◀◀ 今からでも間に合うの？

まだ受け取られていない過去の配当金は、下記の株主名簿管理人（中央三井信託銀行株式会社）にお問合せください。

②各種お手続き ◀◀◀ どこに問い合わせればよいの？

住所変更、単元未満株式の買増・買取、配当金受取方法の指定等は、お取引のある証券会社等にお申込みください。
但し、特別口座*をご利用の株主様は下記の口座管理機関（中央三井信託銀行株式会社）にお申込みください。

***特別口座の株主様へ（2008年12月末までに株券をほふり(証券保管振替機構)へお預けにならなかった株主様）**
特別口座のままでは証券市場でご自身の株式の売却はできません！
この場合、まずは証券会社等にご本人様名義で一般口座を開設し、株式を振り替えれば売買可能となります。また、単元未満株式をお持ちの場合は、同封されている「単元未満株式買取請求」をご利用いただく方法もございます。詳しくは、下記の口座管理機関（中央三井信託銀行株式会社）にお問合せください。

株主名簿管理人および口座管理機関	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先および電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店、日本証券代行株式会社の本店および全国各支店

名句の旅&TDK

第6回【大分】

ふりかへる山^{やま}のすがたの 見えたり見えなかつたり^{たねださんとうか} 種田山頭火

「分け入つても分け入つても青い山」「どうしようもないわたしが歩いてゐる」「うしろすがたのしぐれてゆくか」など、数多くの自由律俳句を残した放浪の俳人・種田山頭火は、昭和7年から6年間、山口県小郡町(現・山口市)に「其中庵(ごちゅうあん)」と名づけた庵を結び、雲水姿で各地に行乞(ぎょうこつ)の旅を繰り返しながら作句にいそしみました。昭和13年春の豊後路への旅のようすは、『道中記』という旅日記に記されています。3月12日に其中庵を出立。中津、宇佐を経て、別府で3泊後、徒歩で湯布院へと向かいました。

別府と湯布院の間にそびえるのが豊後富士とも呼ばれる由布岳。「豊後富士は好きな山である、総じて豊後の山岳は好きだ」と、山頭火は由布岳との再会を心待ちにしていたましたが、途中から悪天となり、惨憺たる由布越えとなりました。湯布院の宿で1泊後、西の玖珠へと向かう道は峠越えとなります。この日は晴天となり、山道から遠望する由布岳の雄姿を詠んだのが、「ふりかへる山のすがたの見えたり見えなかつたり」という句です。玖珠を経て、23日には日田に到着。水郷日田の風情を山頭火はこよなく愛したようで、「川、川、水、水、酒、酒。…日田はいつ来てもよい土地だ」と旅日記に記し、「水車はまはる泣くやうな声だして」「水じゅうわうに柳は芽ぶく」などの句を詠んでいます。

其中庵に戻ってからほどなく、山頭火は人生最期の旅に向けた一大決心をします。4月12日の日記にこう記しています。「いよいよ覚悟をきめた。私は其中庵を解消して遠い旅に出かけよう。…行乞山頭火でないとほんたうの句が出来ない。俳人山頭火になりきれない。」翌年、山頭火は四国を行脚。愛媛県松山市に庵を構えて寓居していましたが、翌年の昭和15年10月11日に突然の脳溢血により59歳の生涯を閉じました。

工場探訪 TDK三隈川工場

磁気テープで培った薄膜塗布技術を生かして
タッチパネル向け機能性フィルムなどを生産

有明海に注ぐ筑後川は大分県西北部の日田盆地あたりでは三隈川(みくまがわ)と呼ばれています。日田はこの三隈川の水運を利用して古くから発達した都市。市内を網の目状に流れる三隈川の水は、生活用水としても使われ、「水郷日田」とも呼ばれてきました。TDKの三隈川工場は、1982年(昭和57年)、日田市の中心部から西へ約4kmの三隈川のほとりに、オーディオテープやビデオテープの量産を目的に新設されました。以来、ベースフィルムに均一な薄膜を形成する“薄膜塗布技術”は、三隈川工場のコアテクノロジーとなり、現在の主力製品である機能性フィルムの製造にも生かされています。なかでも透明導電性フィルム“フレクリア”は、高い透光性を確保しながら、すぐれた柔軟性・屈曲性・摺動性を実現した製品。スマートフォンやデジカメなどに搭載されるタッチパネル向けのほか、さまざまな分野でのアプリケーションに期待が寄せられています。



別府市と由布市の境に位置する名峰・由布岳(標高1584m)。
豊後富士とも呼ばれる。



《山頭火の豊後路の旅(昭和13年)の行程》
3月12日に小郡の其中庵を出立。汽車やバスなども利用しているが、別府から日田までは句を読みながらの行脚。



TDK三隈川工場
(大分県日田市石井町3丁目793-1)



TDK株式会社

〒103-8272 東京都中央区日本橋一丁目13番1号 <http://www.tdk.co.jp/>